

# 令和元年度 延岡市立方財小学校 学校評価書

<b>本年度の重点目標</b>	① かしこく（個に応じた学力の向上） ② やさしく（思いやりの心と節度ある行動の育成） ③ たくましく（体力向上と健康で安全な教育の推進） ④ とともに（家庭や地域、関係機関との連携）
-----------------	---

4段階評価： 4 期待以上  
 3 ほぼ期待どおり  
 2 やや期待を下回る  
 1 改善を要する

評価項目	評価指標	記 説	自己評価結果の考察・分析	学校関係者評価委員コメント	評価
個に応じた学力の向上	① 基礎的・基本的事項の定着とそれらを生かす応用力の育成 ② 家庭学習の充実と基本的な学習規律の育成 ③ 読書活動の推進	2.8	○ 基礎的・基本的事項の定着、家庭学習の習慣化については、一定の成果を上げることができた。また、応用力の育成については、校内研究の内容の一つにすることで、職員がアウトプットを意識した授業づくりを行うようになったため、今後に期待できる。 ○ 一方、読書指導については、取組の見直しが必要である。学校では、ある程度読書をしているものの、家庭での読書に二極化が見られる。家庭を巻き込んだ取組の展開が必要である。	大型テレビやエアコンの設置等、学習環境が次第に整ってきていることに加え、職員の授業改善に向けた意識も向上している。今後ますますの学力向上に期待したい。 読書意欲に個人差が見られるが、読み聞かせや朝の読書の時間、ふくろう号来校等をうまく生かすとともに、家庭を巻き込み、読書活動の充実をお願いしたい。	2.8
思いやりの心と節度ある行動の育成	① 基本的な生活習慣の定着 ② 道徳的実践力と自主的な態度の育成 ③ 思いやりや親切な心、児童相互の信頼関係の育成	2.7	○ 教師アンケートの結果から、異年齢集団活動を通じた信頼関係の育成・活動の充実の取組の見直しが必要であることが分かった。異年齢集団活動は、本校の教育活動の特色の一つであるが、この活動が思いやりや節度ある行動の育成にうまく結びついていない。活動自体を根本的に見直す必要がある。 ○ また、自主的な態度の育成についても課題が残る。子ども一人一人に目が行き届くあまり、必要以上の指示を与えていることが原因として考えられる。	子どもの自主的な態度の育成には、大人の待つ・見守る姿勢が必要ではないか。そのような姿勢を教師、保護者、地域住民がもちたい。全員一律の指導ではなく、一人一人の個性をより尊重して欲しい。	2.7
体力向上と健康で安全な教育の推進	① 体力テストに基づいた体力の向上 ② 児童の実態に基づいた保健指導の充実（積極的なむし歯治療の勧告） ③ 校内外での安全指導の充実と食育の推進	2.9	○ 体力の向上、安全指導の充実と食育の推進については、これまでの取組が一定の成果を上げた。特に、体力・健康への評価が高かった。今年度の取組を継続し、さらに、本校の良さとして伸ばしていきたい。 ○ 一方で、むし歯治療率が今年は伸びなかった。全校のむし歯治療率は現在 40 %で、残り7名の治療がなかなか進まない状況が続いている。保護者への呼びかけを継続していきたい。	むし歯の治療率がなかなか上がらない状態にあるのは、保護者の危機意識が低いことが原因の一つだと考えられる。治療の必要性を粘り強く保護者へ知らせたい。全体的には、運動好きな元気な児童が多いことが分かる。	2.9
家庭や地域、関係機関との連携	① 地域の人材や素材を生かした方財ならではの教育活動の推進 ② 保護者や地域への教育活動や取組の情報を発信	3.5	○ 保護者アンケートでも、教師アンケートでも良好な結果であった。十分目標を達成することができた。これまでの取組が効果を上げていることが分かる。家庭や地域と双方向の情報交換を行い、今後も自分の家族や周りの方々、自分の住む地域に感謝し、地域を誇りに思える児童を育てたい。	挨拶をする児童としない児童の差が大きい。家庭でのしつけの面も原因として考えられるので、保護者を巻き込んであいさつの習慣づけに取り組んでもらいたい。	3.5

**【学校関係者評価委員による総評】 本年度の取組について、次年度への改善に向けて**

保護者アンケートの結果等から、学校へ信頼を寄せている保護者が多いことが分かる。今後は、気軽に相談できる、気軽に授業を参観できる学校を目指して欲しい。学校への信頼が厚くなれば、現在抱えている様々な課題を容易に解決できると思われる。また、保護者と保護者、学校と保護者がもっとコミュニケーションをとれる取組を展開すれば、家庭での教育力の向上も期待できるのではないだろうか。

